

袋井 幸浦の丘 プロジェクト

思いがかたちに、にぎわう幸浦

「海のにぎわい創出ビジョン」に基づき進められてきた整備も着々と進み、防潮堤まわりの整備は今年度で完成です。

これまでのワークショップ

みんなでかんがえる「うみてらす DORI」

今年度はワークショップを3回開催し、うみてらす DORI エリア全体の利活用と保全について検討しました。自治会、サイクリスト、サーファー、商工会、企業など多様な分野の参加者が集まり、各自が「自分たちができること」を軸に意見を出し合いながら話し合いを進めました。

第1回 R7年8月3日

ワークショップ参加者は、令和6年度までに整備された段床スペースや遊歩道などを見学しました。幸浦コミュニティセンターの加藤館長からこれまでの経緯や取り組みについて説明を受け、その後の話し合いに臨みました。話し合いでは、日常的な活動や現在行われているイベント、過去に実施された催し、新たな活用方法について、実施主体や実施方法も含めて意見やアイデアを出し合いました。



第2回 R7年10月26日

浅羽体育センターなどの陸側で行われている活動と、防潮堤などの海側で行われている活動を互いに拡げ、陸と海が一体となって実施するイベントや、新たな付加価値(+α)を加えたアイデアを具体化するため、実施主体や運営方法を考慮しながら検討を行いました。



第3回 R8年2月14日

過去2回のワークショップで考えられたイベント案をもとに、参加者の特性に応じて「サイクリスト」「サーファー」「商工会」「企業」とグループごとに整理され、各グループそれぞれの強みを活かした具体的な意見・提案が出されました。



ワークショップ話し合いを通して

今年度のワークショップを通して得られた、今後に向けての展望

- ・ イベントを一過性のものにしないこと、継続していくために、既存のイベント同士をコラボするなど、関係性をより考えていく。
- ・ 地域の子供たちにとって、学びの場を提供する。知識に基づいた判断をできる実践の場を作り上げる。
- ・ イベントを運営していく、全体を見渡すことの重要性。「人を集める」ではな「人が集まる」場所にしていく。



ワークショップ終了後の講評
(寒竹伸一静岡文化芸術大学名誉教授)

防波堤まわりの整備状況

昨年度は、市内の小学生から「自分の住む地区にゆかりのある動植物」をテーマにアイデアを募集し、12の水タイルが完成しました。また、第3回のワークショップでもタイル張りを行い、遊歩道の整備が完了しました。

今年度は、海辺の駐車場、展望デッキ、シャワー施設、サインが整備されます。



昨年度のWSの様子



波タイル



水タイル

昨年度整備の遊歩道



● 昨年度整備のタイル

● 今年度整備のサイン

サイン整備について

サイン計画は、昨年度ワークショップにて、エリア全体の計画「どこにどのようなサインがあるべきか」そして、段床スペース横の全体案内サインに「どのような情報が示されるべきか」について、ご意見を頂いていました。

それらのご意見に基づき計画をとりまとめ、今年度のワークショップでご報告してきました。段床スペース横の全体案内サインは、今年度完成し姿をあらわします。



全体案内サインが入る 段床部の傾斜部

この部分に全体案内サインが整備されます。3月末には完成しますので是非ご覧下さい！

右は全体案内サインの施工図ですが、昨年度ワークショップでご意見頂いた太平洋岸自転車道や袋井市内の自転車道、バイクルピットの案内や命山までの距離、うみてらす DORI エリアの各施設の位置が把握できる情報が入っています。

